

管理職による授業参観や各教員による自己評価を毎月行い、学期末に報告することで、取組状況を把握する。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能については身につけている児童が多い。 ●長文に対し苦手意識のある児童が多く、長文を最後まで読み取ったり、書かれてある内容を理解したりすることに課題がある。	- 基礎的・基本的な漢字の読み書きや四則計算などが確実できる。 - 長文を最後まで読み、その内容を的確に捉えることができる。	- 朝の国算タイムに全学年でドリル学習に取り組む。 - 月に一回『読書タイム』を用いて『新聞を讀』機会を作り、感想を書く時間を作る。 - 学力向上CDや読解のプリントを活用したり、並行読書を行ったりする回数を増やす。	- ドリル学習で基礎・基本の知識技能が身につけてきている。 - できていない学年もあるので、これから時間を作っていく。 - これからも活用して、回数をできるだけ増やす。	- ドリル学習は、国算タイムを使って取り組むことができた。 - 新聞を用いた感想を書くことは取り組んだが、月に一回することはできなかった。 - 学力向上CDの活用は、できていない学年があった。	「おはなしタイム」で新聞を讀し、時間をとったり、学力向上CDを活用したりと、『読み』『書き』の活動の機会を多く取り入れる。また、それによって身につけた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年期における改善事項
○自分で考えたことを自分なりの言葉を使い、相手に伝えようとしている児童が多い。 ●自分の思いや考えを、筋道立てて表現することが苦手な児童が多い。	- 自分の思いや考えを、理由や根拠を明確にして、筋道を立てて表現することができる。 - 学修評価アンケート中の、「自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする学習が楽しい。」の項目の配点を10ポイント上げる。	- 比較したり言い換えたりするような梁、学び繋がる発問を工夫したり、思考ツールを活用したりする。 - グループ学習やペア学習で自由に自分の言葉で話せる機会を設ける。 - ホワイトボードや協働学習支援アプリ等を用いて他者の意見を取り入れる場面の設定をする。	- 自分の意見をもてるよう、机間巡視などで発問の仕方を工夫する。 - キーワードを複数挙げておき、児童が説明できるようにする。 - 様々な発表の仕方を場合によって使い分け、表現方法を豊かにさせる。	- 発問の工夫を考えることはできたが、思考ツールの活用は十分とは言えなかった。 - グループ学習やペア学習は、十分行うことができた。 - ホワイトボードや協働学習支援アプリ等は、学年が上がるにつれて、使用頻度は上がっている。 - 配点の「そう思う」のポイントは、去年と同じで達成できなかった。	- 自分の思いや考えを、理由や根拠を明確にして、筋道を立てて表現することが苦手な児童に焦点を当てて支援する。 - キーワード等を用いて、教師が苦手な児童と発問し、意見をもてるよう導いていく。 - 理由や根拠を明確にさせる習慣をつくる。

児童生徒の状況 (○よさ・●課題)	具体的目標 (目指す子供の姿)	具体的方策 (教員の取組)	中間期の見直し	達成状況 (評価)	次年度における改善事項
○宿題などの与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ○指示された学習や手順の分かる学習には根気よく取り組むことができる。 ●応用問題や発展問題などに主体的に取り組むことに課題がある。 ●家庭で読書をしたり、学年×10分以上の家庭学習の時間を確保していたりする割合が低い。	・自ら課題気づき、解決することができる。 ・各教科の応用・発展課題に主体的に取り組むことができる。 ・家庭学習の状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・教科書に関連した本を読み、学習を深めることができる。	・積極的にタブレットを活用し、子どもたちが主体的に学習に取り組む意欲を高める。 ・学習のめあてや単元のゴールを明確にすることで、児童に見通しをもって学習させ、次第に繋がるような振り返りの時間を確保する。 ・家庭学習チェックカードのコメント欄を利用し、児童や保護者に家庭学習の意欲づけをする。 ・家庭学習チェックカードを分析し、その結果を学級だよりなどで発信し、啓発を行う。 ・教科書に関連した書物を教室に置き、読書タイムなどの時間に並行読書を奨励する。	・タブレット学習に子ども達が主体的に取り組めるような手引きを作る。 ・家庭学習チェックカードについて、学年によってばらつきがあるので、学期に一度は学級だよりでお知らせをする。	・児童が主体的に取り組めるように手立てを明確にし、タブレットを有効に活用した。 ・家庭学習チェックカードを分析し、学級だよりで保護者に発信することができてきた。 ・教科書に関連した書物を教室に置き、児童に意識づけをした。	・ICT支援員と連携し、各教科でプログラミング学習を積極的に取り入れる。 ・家庭学習チェックカードについて、学期に一度は学級だよりでお知らせすることを徹底する。

